

府中市生涯学習審議会（平成21年度第4回） 会議録

1 日 時 平成21年7月27日（月）午後3時～5時

2 場 所 府中市役所北庁舎3階第3会議室

3 出席者（50音順・敬称略）

（1）委員14名

加藤 佑子、西勝 義恵、坂本 明美、澤井 幸子、設楽 厚子、芝 喜久子、
白井 紀子、鈴木 映子、寺谷 弘壬、野本 京子、平形 芳郎、
比留間 一磨、三宅 昭、山内 啓司

奈良委員は欠席。

（2）職員5名

大野文化スポーツ部長

齋田文化スポーツ部次長(兼)生涯学習スポーツ課長

山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、市ノ川企画係長、大木

4 報告・連絡事項

（1）社会教育連絡協議会第5ブロック理事会

6月26日午後2時～狛江市役所

狛江市、調布市、三鷹市、小金井市、武蔵野市、府中市。

10月17日（土）に開催する第5ブロックの研修会の内容を検討した。テーマは「地域の特色を生かせる社会教育～世代を越えて学びあうまちづくり～」。府中市の「学び返し」についてのシンポジウムを実施する予定。

（2）社会教育委員連絡協議会理事会の報告

全国社会教育研究大会の開催予定（10月28日～10月30日、会場は熊本市民会館）

関東甲信越社会教育研究大会の開催予定（11月2日・3日、会場は埼玉スーパーアリーナ、参加人数は1,000人程度）

社会教育委員連絡協議会では、生涯学習審議会委員が参加するために4人分の予算を計上している。後日、募集要綱と申込み用紙を送付する。

来年度開催の関東甲信越社会教育研究大会については、東京都で開催する予定。

（3）前回議事録の確認

5 協議事項

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨] : 委員 ➡ : 事務局

(1) 視察について

- ➡ 八王子市の視察を予定。八王子市では、平成19年度から「学習支援委員」という制度を実施している。元々は青少年委員から始まった制度で、生涯学習審議会委員とは別に、府中市の考える「ファシリテーター」と類似した役割を担っている。視察では、制度立ち上げの経緯を含めて話を伺いたいと考えている。日程は、8月17日の週で調整中。本来であれば審議会委員全員で視察したいところだが、3～4人程度と事務局で視察したい。府中市では、文化センターが公民館の機能を含んでいるが、八王子市では、公民館とは別に、生涯学習施設が17館設置されている。施設の形態は異なるが、地域住民とのコミュニケーションを深めて施策を進めていこうという内容は共通しているので、その点も話を伺いたい。参加希望は、社会教育研究大会の希望と同時に集める。視察で質問したい内容があれば、当日でも良いので、事務局に教えてほしい。

視察先は、八王子市の施設か。

- ➡ 本庁舎の予定。

時期が迫っているので、早めに募集の通知をもらいたい。

生涯学習の先進的なモデルケースと呼ばれる市はあるか。

一概には言えない。京都は町並みの保存など、得意分野では進んでいるが、進んでいるのは部分的である。

- ➡ 市によって様々なタイプがある。例えば三鷹市は、民間企業や大学とネットワークをつくって発展している。民間の指定管理に委託して実施している市や、山中の施設を持っていて林間学校などに力を入れている市もある。何を求めるかによって、視察先は変わってくると思う。

山梨県韮崎市は「生涯学習宣言都市」という旗を掲げている。その取組みについて知りたい。まずはホームページなどで見たうえで、視察にも行って学びたい。

ほかに希望はあるか。三鷹市は地域住民が活躍していて、生涯学習のモデルケースと言えるのではないか。

横浜市ルネッサンスというところ。行政で場所を提供してファシリテーター的な役を市民が引き受けている。廃業した映画館などを市が買い取って、市民に上映さ

せるなどの取組みをしている。こういうところの運営方法を知りたい。文京区の図書館では、岩波映像のような企業や東京映像メディア研究会とのタイアップで映画の上映を行っている。企業にファシリテーターのような役割で運営をさせ、あとは文京区民に任せようという取組みが9月から始まる。府中市もそういうやり方をやってもらえれば、行政と競争する形になって良いのかなと思う。

視察については、蕪崎と横浜の希望が出たので、この2年間で行き先を事務局に検討してもらおう。

(2) 第2次生涯学習推進計画の具体化について

今までの議事録を整理すると、第一歩を踏み出せない人の後押しの問題、生涯学習事業のマンネリ化、それがファシリテーター育成の問題を含んでいるという意見、青少年の居場所づくり、キャッチフレーズ「学び返し」の考え方の問題、事務局からは生涯学習センターのあり方について、意見をいただいていた。それらを少しずつまとめながら、具体化に向けて踏み込んだ意見をいただきたい。

その前に、審議会の日程を9月7日に変更したのは、審議を急がなければならない理由があったのか。

➡ 9月7日は生涯学習センターの休館日であり、センター内の会議室等が自由に見学できる。

次回は9月7日の2時から、生涯学習センターで開催する。9月後半に予定していた日には開催しない。生涯学習センターを見学しながら、センターのあり方について審議したい。また、8月は審議会を開催しないので、生涯学習センターで活動の様子を見てもらいたい。

話が前後してしまったが、第一歩を踏み出せない人の後押しの問題、ファシリテーター育成の問題、生涯学習事業のマンネリ化について話を深めていきたいので、よろしく願います。

第一歩を踏み出せない人は、大勢いると思う。自治会の活動でも、その地域に住んでいながら、まったく関心を持っていないわけではないと思うが、参加しない人が大勢いる。お聞きしたいのだが、くらやみ祭では、新しく引っ越してきた住民から参加したいとの相談を受けることはあるか。

あるのだが、府中のくらやみ祭は独特で、70歳を過ぎた上の方々がうんと言わないと入れない。大國魂神社を中心とした周辺の自治会にも、新しい人はなかなか入って来られない。自治会の役員になってほしいと、新しく来た人に頼むこともない。

一宮、二宮などいろいろあるが、本当に限られた人しか入れない。その前に、そ

それぞれの地域で開催される祭に参加してから。女性会で地域の祭に手伝うことがあるが、男性の数は少ない。それぞれの都合があると思うが、活動に参加するためには自治会などに入らなければならないのかな、と話している。

くらやみ祭を頂点とした府中伝統のお祭に参加するためには、段階を踏まなければならないのは分かる。それと同じ現象が、一般の生涯学習にもあるのか。

それはないと思う。やる気さえあれば参加できる。

第一歩の後押しということで、府中NPO・ボランティア活動センターでは市民活動を推進しているが、後押しをしてくれるところのコミューナルが足りないのか、市民の意識がないのかが分からないが、参加者が少ない。今の状況では、関心を持っていないことが大きい気がする。マンション・集合住宅に個々のやる気のある人がいるとして、どうやって参加してもらうかを検討している。先日、地域デビューというテーマでセミナーを実施したところ、9人の熱心な方々が参加してくれた。60歳以下の、団塊の世代だったが、その方達の意見も聞いて、どうやって参加してもらうかを検討している。今、具体的に考えているのは、ハイキング形式で市内のどこかを歩こうという企画を立てて、任意に参加してもらうような状況をつくっていき、徐々に口伝えで参加者を増やしてもらうシステムをつくることを計画している。

やる気のある人に参加してもらうことが、府中市の活性化に繋がる。二十数年前に生涯学習の委員だったころ、府中市の活性化のために祭をやらうと話していた。祭には、成功しているところと、そうでないところがある。成功している祭は都心に集中していて、地方の祭はテレビの取材が入るときしか活性化しない。テレビのハイライトが当たると、変な若者が集まる。例えば姫路のゆかた祭には暴走族が集まるようになった。今年も開催日を日曜から平日に改めたが、それでも暴走族が集まってきて、ゆかた祭が正常に実施できなかった。そういう人たちを排除して、ほかの入りたい人をどうやって入れるか。府中市では二十数年前、主婦たちが半強制的に炊き出しに駆り出された時期があった。今はやめていると思うが、余り参加したくない人まで半ば強制するのは良くないと思っていた。府中市のためには、やる気があって、市内に住んでいて、府中市にお返しができるような人に参加してもらった方がよい。

7年ほど前になるが、市外から来た人間が御輿を担ぐにはどうしたら良いか取材をしたところ、ボランティアをしなければならぬと聞いた。中高生ぐらいに花を作ったり子どもを教えたりして、中高生も下の子どもにボランティアをする。そういう体制を仕組みで実績を積んだ人が、御輿を担げる身分になるという。きちんとしたしきたりによってボランティア精神がその地区で守られていた。

5月のくらやみ祭は大國魂神社の神事。やる気があっても、神事を知らなければ

入れない。

全国的にはこうした例は多い。府中市は大國魂神社でまとまっている分、うまくいっているのではないか。

11月3日の市制55周年のパレードは、大國魂神社から大太鼓を借りて、囃子を集めて行うが、神事ではない。こうした催しが市民の力で大きくなれば、誰でも参加できる市民の祭になっていくのではないか。大國魂神社などから太鼓23台を借りて甲州街道に並べる、壮観なものだ。

府中市が主催なのか。

市制の祝賀会として市が主催する。市民参加で大きな祭になってほしいと思っている。

誰でも参加できることを強調してもらいたい。

教育もゆとりができてきた。昔は、祭に熱心な子は大学に行けないと言われていたが、今は太鼓の演奏にしても、その能力で入れる大学もある。ゆとりが子どもたちにできているので、祭のときには非常に協力的。こういうことは、地方の活性化のために非常に良いことだと思う。府中市と二本立てでやればいい。府中市で生まれた子が、大國魂神社の氏子になっていく。ある意味では、間接的に連なっている。

子どもには可能性がある。小さい頃からいろいろな体験をすると良い。

半強制的に、小学校2年生から中学校2年生くらいまで屋台の歌をたくさん歌った。小さい頃は意味が分からなかったが、大きくなってから分かる歌もあった。夜遅くまで歌わされて、それについて行けない子どもがいたほど厳しかった。みんながみんな、というのは難しい。大学祭もそうだが、祭に行かない学生と行く学生に分かれていくが、それでいいと思う。全員が同じようになる必要はない。

テレビで見ていると思うが、サントリーのラグビー部のコーチ2人に太鼓を叩かせたことがある。黒人のコーチだが、喜んで叩いた。

くらやみ祭は別格で、大國魂神社が府中市に存在していることは他市から移り住んだ人にとっても心強く、末永く存続させてほしいと思う。ただ、我々が議論の対象にしているのは、誰でも参加できる生涯学習活動に関して、参加したいという気持ちは持っているけれどもなかなか参加には至らない人を、どう後押しするかという問題だ。

大國魂神社1900年の歴史が今日まで築いてきたものを変えるためには、この先何十年とかかるのだと思う。

国府太鼓が大國魂神社の境内で演奏を奉納するのに、去年初めて成功した。そのために、大國魂神社と何年もの折衝があった。そのように、少しずつ融合していくのかなという気がする。国府太鼓というのは、芸大の先生が作詞作曲されたが、5

7年ごろから続き、支部ができ、オーケストラに匹敵するような状態にまでなった。一般市民でも講座を受ければ誰でも叩けるようになり、祭事とはまた違った自由参加の学びができる。

まず人間が交わらないと駄目だ。国府太鼓を発足させるときの経過を知っている。くらやみ祭の太鼓は長い歴史がある。それに対して国府太鼓は大学の先生が作曲した新しい太鼓、新しい文化であるとして、長い間接点を持とうとしなかった。人間が交わらないと、太鼓も一本にならない。今は大丈夫だと思うが、まず人間だろう。

地域文化センターの祭が7月に開催された。中学生がこの祭にどう関わっているか疑問に思って、プログラムを見た。八中の吹奏楽部、二中の和太鼓クラブ、10小の「青空太鼓クラブ」が各文化センターで演奏を披露していた。地域の団体から子どもが参加すると、保護者や地域の人も見に来る。太鼓を叩いている小学生の何人かは中学に上がって太鼓クラブに入り、卒業してからも国府太鼓のチームなどに入って、繋がっていくのだと思う。そういう子どもの動きを考えたとき、文化センター祭の企画の中に子どもの出番をつくることで、自治会や民生委員など様々な立場の大人が関わる事実があるので、地域から市全体を見直す必要がある。文化センターの敷地にテントを張って、やぐらを組む。限られたスペースには限られた人数しか集まれないが、参加者が交流できているので、大事にしたい。調布の北ノ台小学校では、校庭を開放して、相当数の参加者・団体を集めている。そこが府中と調布の違い。小中学生が自分たちの活動を発表する機会をつくり、活動を続けることにつなげていくことが大事だと思う。学校も校長が挨拶に来て、祭と関わっていた。足元を見たとき、私たちが知らないだけで、府中に活力を与えるものが沢山あるのではないか。地域の中でファシリテーターのような活動もしている人もいるはず。そういう人に、苦労した点や目指す方向を伺えば、参考になるのではないか。

(休憩)

先ほど、地域のまつりでの子どもたちの様子を聞かせてもらった。委員の中にも先週の文化センターまつりに関わった人がいると思う。紅葉丘文化センターの様子はどうだったか。

盛大に行われた。先ほど太鼓の話題が出たが、紅葉丘文化センターでは19日に小学校3年生から中学生ぐらいの子どもたちが所属するサークルに金管楽器を演奏してもらった。その後、十小、二中の和太鼓クラブが演奏してくれた。18日夜には盆踊りを行った。今回、和太鼓クラブは女子だけだった。金管楽器のサークルには、男子が何人かいたようだ。狭い敷地ではあるが、人を掻き分けて進まなけれ

ばならないほどの盛況だった。

運営に悩みがあるか。

主催役員の年齢が高くなっている。60代以上が多い。

40～50代のお父さん、お母さん方が企画に参加するのも難しいか。

子ども会が出店することがあり、その世代の方にも参加していただいている。最初の一步が踏み出せない、という話があったが、最初は自治会から推薦され義務で参加していた方が、参加する内に面白くなって、積極的に参加してくれることがある。従って、一步踏み出すというよりも半歩踏み出すことが大事だと感じている。

住吉文化センター祭に参加した。駅から近く便利な場所のため、利用者が多く、自主グループの数も多い。実行委員会をしていて、シルバー人材センター、青年・子ども関係など相当の人数が集まる。当日の天気にも恵まれて、盛大に終わった。地域だと余りお金をかけずに家族で参加ができる。ジュース、焼きそば、おもちゃ作り体験など、シルバーや青年部の協力で安く提供できることもあって、親子で参加してくれた。抽選会を実施すると、また大勢の方が来てくれる。実行委員それぞれの工夫によって成功した。舞台づくりにしても、自治会や青年部が一体となって協力してくれるからできる。自主グループは実行委員に食事を用意したが、そこでも交流ができた。それと、住吉町はお囃子が盛んで、センター祭でも2日間続けて、幼稚園のころから続けてきた青少年が演奏している。指導者も立派な方で、仕事をしながら、毎週月曜日にボランティアで指導してくださっている。お囃子を演奏している人たちはくらやみ祭にも出ていくし、青少年対策地区委員会のサウンドフェスティバルでも発表する。年齢に関係なく、楽しく進めている。府中は恵まれたことに、一斉に文化センター祭を開催して、市長もセンターを回って労いの言葉をかけてくれる。四谷の手伝いをしたことがあるが、八中の吹奏楽が素晴らしかった。子どもたちも友だちと遊びに来るが、それも素晴らしいことだと思う。

国府太鼓について聞きたい。国府太鼓は市の予算で作った太鼓で、神事とは関わらない、純粹に市民のための太鼓だが、それを全市的に普及させることはできないか。

できると思う。十小の和太鼓クラブのような形で段々と普及させている。

府中のくらやみ祭の囃子は二つの流派があって、祭を盛り上げるために続いているが、新しく府中でつくった国府太鼓をもう少し力を入れて…。

若松小学校もそうだし、いろいろな小学校で和太鼓クラブを持っている。その太鼓は市の予算から学校に買ってもらったものだ。

教育委員会が入ってやれば差しさわりがないのではないか。

先ほども申したように、国府太鼓連盟の主催で、その支部が当番制で講習会を行

っている。今年の支部の方が、去年の支部よりうまいと言われることもあるが、そのような活動をとおして普及している。

- ➡ 国府太鼓は、市が主宰となって毎年4月に生徒を募集している。小さな子どもや女性にも人気があって、毎年数十人の生徒が入ってきている。1年で卒業するが、「響き会」を始めとする太鼓の団体や、地域のお囃子に加入して、習ったものを生かしたいと思う人が多い。国府太鼓も外から引っ張りだこで、イベントがあると呼ばれていくこともある。そういう意味では、府中の国府太鼓は評判が良い。ただ、どちらでもできるような環境整備は必要だと思う。小学校には和太鼓クラブができていて、青少年音楽祭でも各校が和太鼓を演奏している。学校単位では太鼓、ジャズのバンドができるようになった。そういう意味で、府中の太鼓の指導は普及が進んでいる。文化振興課が担当しているが、そこで事業活動に対する育成を含んだ支援策が進められ、人材が育成されている状況だ。

府中市は他市から見ても、文化センターなどが設置されていて、今の話のように非常に活発だと思う。ただ、第一歩を踏み出せない人の後押しという視点でいうと、先ほどの普及の話が学校単位になっている。小学校の和太鼓サークルに子どもが行けば、親も行く。一過性の関わりではなく、繋いでいければ良いだろうし、一過性であっても様々な人が関われば良いと思う。しかし、ここで聞きたいのは、府中市の自治会や地域でどのような関わりをしているかということ。三十名程度の自治会でまとめ役をしたことがあり、そこで横の繋がりもできたが、それがなければ、第一歩は踏み出せなかったと思う。第一歩を踏み出せないのはなぜかを考えなければ。それと、審議会の委員は活動の中心にいる人たちばかりだが、なぜ自分たちが第一歩を踏み出したのか、ほかの人たちとの違いは何かを聞きたい。既に第一歩を踏み出している人から見ると簡単に思うかもしれないが、踏み出すことは実際に難しいことだ。

市政というものは住民の幸せを守る、安全や健康を保障することを主としているが、それ以外にも市民の生きがいを高めていくことも目的としている。我々がここで話し合っている対象だと思うが、いかに向上心や学習意欲を引き出し、社会参加を進めていくか。私は人から後押しされて来ている。だから、後押しのためにキャッチフレーズを考えたい。「生涯学習」や「学び返し」ではぴんと来ない。ぱっと頭に入るような面白いキャッチフレーズを考えた方が良いのではないか。

分析をして、なぜ踏み出せないのかを理解したうえで押し出すという方向に持っていければと思う。そのときの方法としてのキャッチフレーズと理解した。

キャッチフレーズで人を動かすのは難しい。

委員が踏み出した理由だが、端から聞いていく訳にもいかない。

生徒や学生が生涯学習したいとは思わないだろう。とすれば、今現在働いている人か、仕事を退職した人について考えることになる。働いている人には時間がない。退職して、自分のやりたいことをやろうという気になる。そのときに広報ふちゅうなどを一生懸命読んで、魅力的な講座を申し込むものの、定員一杯で断られて、それきりになってしまう人が、かなりいるのだと思う。広報の講座情報欄を大きくして、どこでこういった講座があるのか、一覧表にする。そこまでして踏み出せないなら、仕方ない。

そうは言い切れない。また、年代による問題でもないだろう。退職した年代の中でも、性格上で外に出にくい人と、チャンスがあればやりたいと思っている人がいる。まず青少年の内が一番適しているのは、中学卒業のときだと思う。高校で楽しいことをやるまでの期間というのは、一番揺れ動いている。このときに社会に出るきっかけがつかめると、次の期間も仲間同士で繋がる。また、団塊の世代では、退職後に働きたくても仕事がなく、家にもいづらいとなると、何かをしていたいという事情がある。この点、女性の方には積極性がある。自分で情報を集めて、社会に進出する手段を持っている。男性にそれができないのはなぜか。恐らく余裕ができていない。社会生活をするためのお金のゆとりの問題が大きい。それが自分の前に立ちふさがっていて、これをやっているといいのか葛藤してしまう。もう一つは、見学して外から踏み出す機会を窺っているが、タイミングが分からない。そこで後押しが必要になる。グループに参入するきっかけをつくる。例えば、将棋クラブのメンバーで映画を観に行く。そうしたきっかけづくりというものが、生涯学習の手段として必要だと思う。ただし、高齢者にとっての生涯学習のきっかけは難しい問題で、自分で動ける人がいる。動けない人はどのように支援するか。動ける人は、話し相手が情報提供するなどのシステムがあれば集まるかも知れない。先ほど住吉文化センターが活発であるとの話があった。そういうところは、集合住宅が少ないのだと思う。

団地の自治会なども皆さんで参加してくれているが。

システムづくりの問題で、集合住宅にどうやって呼びかけるかという地域のグループづくりがどうなっているか、全部の町内でできるシステムができると、生涯学習が先に進むような気がする。市内の良い事例をもって、ほかの町内にも進めていければと思う。新町の文化センターには、府中の周辺部の住民はあまり来ない。そういった地域性の問題はあるが、とにかく「旗を立てる」ことだと思う。

団地の自治会長の場合、農業祭だけでなく、芸術文化祭にも招待を出す。そういう情報提供はよくやっている。

今年の3月に、歩こう会を立ち上げた。毎月第3日曜日の朝に都立公園の入口に

集合して歩くほかに、毎日朝8時と9時、夜8時に歩ける者だけ歩くということにしている。先日、第3日曜日の朝に抽選会を開催して30人ほどが集まったが、ほとんどが町会の役員で、新しい人がいなかった。入ってほしいのは新しい人なのだが、なぜ入らないかが分からない。

役員が、近所に催し物の呼びかけをしてはどうか。

呼びかけはしているが、内容を工夫すればよかったのかも知れない。

どのような呼びかけ方をしているのか。

まず歩くことは健康であるということ、服装は自分の服装で良いことなどを口伝えで呼びかけた。文面も書いて、町会の人に持って行ってもらった。名簿に載っている人は60人程度だが、先日の抽選会で商品を用意しても、実際に参加したのは30人程度だった。

事業の立ち上げというのは難しい。

経験からいうと、西府文化センターの周辺住宅地は反応が冷たい。100世帯以上が入ってきたが、交わろうとせず、朝の挨拶もしない。そこで、コミュニティ協議会と相談して親睦委員会をつくった。自分の関わりのある人に委員になるように頼み、6班を編成し、何をしようというところで、当時流行していた「ペタンク」などのスポーツ指導を考え、今に至っている。

なぜ出ない、という原因が分かれば。

女性は早くから社会進出している。男性は組織に縛られて仕事をしている。基本的にはワーカホリックで、40数年勤めたところで放り出されるので、何をしたら良いか分からなくなる。自分もそれと同じ状況であったが、折角市民になったので、いろいろ調べてかなり分かるようになった。住みはじめてから10年程度しか経っていないのに、どうしてよく知っているのかといわれることがある。結局、ワーカホリックをどう抜け出したかではないか。自分が一步を踏み出すのは、広報の生涯学習情報ボランティア・パソコンボランティア募集の記事を見てだった。それは、何かやらないと仕方ないなと思ったからで、自分に合わなければやめれば良いとも思っていた。府中が終の棲家と思って府中のことを勉強しながら一年過ぎたころに、今度は自治会の役員に推薦されたので、自治会活動もある程度知ることができた。当時は12・13軒が自治会に加入していたが、今は半分に減っている。最近のごみの問題にしろ、自治会を外れている人のところに回覧が回らないので、個別に説明会などの情報を伝えていく必要があるなど、問題もあることがわかった。

結局のところ、これはと思った人に一生懸命に働きかけることしか、とりあえずはないのかと思う。

もっと話を深めたいところだが、時間が近づいてきた。これで審議事項を終わる。

[次回の開催について]

以下の日程で開催する事が決定した。

全体会：9月7日(月)生涯学習センター